

平成27年度指定研究の概要

本庁又は出先機関が定める指針などにより実施する研究です。

本年度は、政策局 政策部 科学技術・大学連携課「神奈川地域資源活用研究事業」1課題、「神奈川重点実用化研究事業」1課題、「未病研究事業」1課題、ヘルスケア・ニューフロンティア推進局「最先端医療製品等実用化推進事業」1課題を実施しています。

神奈川重点実用化研究事業(政策局)

1	秋山晴代	理化学部 薬事毒性・食品機能G	免疫療法の事前評価系の構築と低アレルギー性食品の評価法の確立 近年開発された超高感度アレルギー試験法EXiLE法を応用した評価系開発により、アレルギー症状の中でも最も重篤なアナフィラキシー予防(リスク低減)に臨床/食生活の2側面からアプローチする。まず、1)免疫療法のアナフィラキシーリスクを評価する新規培養細胞株を樹立して新しい事前評価系を構築し、臨床応用に繋げる(臨床評価)。さらに、2)低アレルギー食品の簡易・高感度スクリーニング法を確立して県産農産物に応用する(食品機能評価)。
---	------	--------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

神奈川地域資源活用研究事業(政策局)

No.	研究員	所属	研究課題(概要)
1	大屋日登美	微生物部 細菌・環境生物G	肺炎マイコプラズマの薬剤耐性化および菌型との関連性の検討 マイコプラズマ感染症治療用のクロライド系(MLs)薬剤に対する耐性菌が、神奈川県内で分離されその後増加している。このような中、MLs薬剤に代わって使用されるニューキノロン(FQ)薬剤に対する耐性菌の出現が懸念されている。そこで、FQ薬剤に対する耐性化の可能性とその機構の解析などを行う。

未病研究事業(政策局)

No.	研究員	所属	研究課題(概要)
1	秋山晴代	理化学部 薬事毒性・食品機能G	未病に関与するターゲット因子解明とその応用 本研究では、未病期のうちに生活習慣病対策を行うための臨床応用可能な解決策立案を目指す。具体的には、未病期を「生体内で小規模な炎症が起こりつつある状態」と定義し、マウスを用いた基礎研究により、未病期に変動し、かつ炎症等を誘導する因子等を明らかにする。

最先端医療製品等実用化推進事業(発がん性分析法実用化展開事業)(ヘルスケア・ニューフロンティア推進局)

No.	研究員	所属	研究課題(概要)
1	大森清美	理化学部 食品化学G	神奈川県発「Bhas42細胞形質転換試験法」の国際実用化に関する研究 神奈川県(衛生研究所)が開発した「Bhas42細胞形質転換試験法(Bhas 42 CTA)」における遺伝子の網羅的かつ詳細な解析を行いがんとの関わりを明示するとともに、発がん物質等での活用実証データを蓄積し試験法の有用性を裏付けることにより、OECDテストガイドラインとしての認定を加速化させ、神奈川県発の試験法を国際的なレギュラトリーサイエンスの進歩につなげる研究を行う。また、網羅的遺伝子解析の結果から、がんのゲノム創薬のシーズとなりうるがん関連転写開始マーカーを創出し知財化する。